

豪雪地帯越後の名山に
浅草岳・守門岳

実施日 2016年6月18日(土)~19日(日)
天候 晴れ
リーダー 涌井 良明
参加者 涌井良明、石附智江、遠井兼策、
中村友子、宇野輝代、濱田優美
子、峯川弘子、向山博子 計8名
費用 JR12,300円(東京駅起算)
いんか-4,700円 宿泊8,100円
合計25,100円

タイム 6/18 越後湯沢駅(8:06~30)ネズモチ平P(9:45~10:05)登山口(10:20)休(10:50~11:00)休1380m近(11:46~50)前岳分岐(12:20)浅草岳(12:45~13:27昼食)休1220m近(14:50~55)桜ゾネ登山口(15:00)ネズモチ平P(15:30~40)小西屋(16:30)
6/19 小西屋(7:20)保久礼P(8:15~25)保久礼小屋登山口(8:30)キビタキ水場(9:05~10)第二展望台(9:50~10)大岳(10:40~47)守門岳(12:16~53昼食)大岳(14:05~15)保久礼P(15:40~15:55)越後湯沢駅(17:30)

梅雨の時期としては天気恵まれ、積年の行きたい山と見たかったヒメサユリを堪能できて印象深い山旅となった。

6/18 越後湯沢駅からレンタカーで、まずは浅草岳登山口のネズモチ平を目指す。

山里から山奥、更に狭い林道をくねくねと進んでネズモチ平Pに着く。かなり広いPでトイレも完備、先着は20台前後か？ 奥に延びる林道を進み、文字の消えかけた標柱が立つ登山口から山道へ。



リボンの見落としもあったが、濃い緑の道の展望も殆どない夏の暑さの登りを行く。一段と傾斜も増し、湿り気が多いぬ

道型ははっきりしてはいるが、東京近郊ほどの整備はされていない感じはない。やはり登山者の絶対数の差か。沢の徒渉箇所

かるんでいる所や小さい岩交じりの手強い急登が続く。

標高1200mを越した辺りで、ヒメサユリのピンクを見た。早速何枚かシャッターを切った。周囲の眺めも良くなって、周囲の山岳風景も楽しめるようになってくる。



左上に望む稜線のスカイラインや足元の花々に目をやりつつ登り、稜線の前岳の分岐に出る。左山頂、右は桜ゾネルートになっている。

左へすぐに今回唯一の残雪を踏む、距離は短い雪渓の登りだ。尤も足跡ステップも付いているのでそれを辿って登る。平坦になり更に短い雪渓が終わり、夏道の木道



になると山頂は近い。狭めの山頂は一等三角点が置かれ、三々五々憩いの場となっている。

頂稜の東側に移動して、眼下に田子倉湖、前岳から連なる北岳、鬼が面山の山並を眺めながら昼食にした。

食後はひとしきりヒメサユリの撮影会に興じてから山頂を辞する

雪渓の下りは慎重に歩を運び、前岳分岐迄戻り、時間的にも想定より余裕もあったので、桜ゾネコースを下り周回ルートを歩くことにする。

西に延びる尾根に進むが、これが大正解、足元には次々にヒメサユリが微笑み、展望もある尾根の道である。やたら目立つ三角形の嘉平与ボッチを越して



桜ゾネを下る、登りの北ルートに比べ傾斜も緩くじめじめ感もなく歩き易い＝下り易い尾根道だ。樹林帯になって所々開ける展望やゴールのネズモチ平に残り道程も測りつつ下る。浅草の鐘なるパイプ製の鐘楼を見ると山道も終わって桜ゾネ広場に出る。

ここからはクルマは通らない林道を緩く下って、今朝スタートの登山口広場を過ぎて想定タイムより早めにネズモチ平Pに帰着できた。

四時過ぎには今夜の宿は越後須原駅近くの小西屋旅館チェックイン、清潔感もある広々室内や豪華な食事に満足の一晩となった。

明日の守門岳も頑張れそう~かな？

6/19 さて窓から見る空は今日も青空、ラッキー(^-^)

早めに用意してもらった朝食でしっかりと腹ごしらえをして、守門岳登山口の保久礼Pに向かう。何せナビには名称も登録地もないので、通過点名称をセット、その先はやや心もとなかったが何とか予定の保久礼Pに、先客は出発準備中も含め2~30台、ほぼ満車状態だった。

我々も準備を整えてスタートする、駐車場奥へ坂を下ると保久礼小屋の登山口



になる。遊歩道のように整備された階段道を登る、30分程も階段が続く、キビダキ小屋下の水場に出る。登山道

近くに美味しい水が流れ出ている。階段もなくなるが、傾斜も増すが厳しい急登と言うほどではない。

第二展望台と表示のある眺望ポイントで一息入れて、稜線の一角の大岳を目指して更に高度を上げる。

1300mを越した辺りで、守門のヒメサユリにも対面できた。不動平、水場と過ぎ、稜線が近くなると大岳に登り着く。

祠と鐘が鎮座した2等三角点のピークだ。守門岳は大岳とこの先の青雲岳、袴岳(本峰)と三つの頂を抱く大きな山容を誇る。本峰まではまだ長い道のりだ。

大岳で登山道は右に方向を変えるが、ここで一気に素晴らしい山岳景観が広がる稜線の道になった。



緑の山腹に残雪模様が配された守門岳のスカイラインが今までの登りの苦勞を忘れさせるくらいの眺望だ。

ヒメサユリが列をなす道は、一旦、鞍部めがけて一気に下る。往復なので帰路は当然一気の登山返しになる。

鞍部辺りからは黄色のゼンテイカ(ニッコウキスゲ)も見られるようになる。

鞍部から更に灌木の急登で体を持ち上げると、気持ち草原状の青雲岳に出る。この先のピークが本峰だ、青雲から木道を辿り、再び登山になるが長くは続かずに袴岳(守門岳)に着く。

小広い山頂で2等三角点がある。

湿度が高いのか、あまり遠望は利かないがぐるりと展望のある気分の良い山頂だ。登山者の姿もそれ程多くなく、ゆっくりを山頂のランチタイムを楽しむ。

RDB(レッドデータブック)登録されているのオノエラン(尾上蘭)にも合えたのは、ラッキーだった(〇〇さんのおかげ)

昨日登った浅草岳が墨絵屏風の様にも。さて、下山は往路を戻ることになるが、大岳への登山返しは~

青雲の草原を過ぎて、急な下りで鞍部へ、そして大岳の急登にかかると、思っ



ていたほどのキツサは感じないで登山したかな。大岳でしばし今歩いてきた守門岳と名残を惜しんでから、

往路を下山する、登山道は毎年地元の方々により整備されているのとことと、お陰で登山下り共に歩き易い道に感謝。キビタキ水場で、目一杯のどを潤して階段道を下って、無事下山した。

越後連続二山、この時期に雨にも遭わず花々にも歓迎されて、個人的には印象の山になったと思っている。

参加メンバーの皆さん良い山だったですか？ 越後の山の一端を感じてもらえたならそれも有意義な山行だったのではと思います。

山ってイイもんですね\(^o^)/ また一緒に行ってくれるかな??って古いか~ (@_@)

(記&写真・涌井 良明)

